

学 会 記 事

◎第6回理事会 (34.11.27) 出席者：田中会長，富樫副会長，尾之内，藤村，田中，井口，西嶋，末森専務の各理事。 報告事項：1) 土木賞規約制定委員会の第1回，第2回の協議結果について星埜委員長より説明があった。2) 11月26日までの各種委員会，行事，会計，刊行物の報告。 協議事項：1) 「土木士」制度制定に関する委員会について午前中に平山委員長と会長，富樫副会長，尾之内，末森専務両理事打合せの結果により，副委員長，幹事役を内定し近日中に委員会の構成，運営方針について企画することとなった。2) 災害対策研究に関する委員会設置について岡田委員長が臨席の上構想について協議し，事務局において建設省，運輸省，国鉄，農林省，大学等の関係者と相談して構成メンバーを起案することとなった。3) 35年度文部省科学研究費等分科審議会委員候補者(田中 清委員の後任)2名推薦については小西一郎，岡田 清両君を推薦することとなった。4) 委員会委員交代委嘱を承認。1. 論文集編集委員会：大島太市委員の後任に多谷虎男君(鉄道技術研究所)を委嘱。2. 会誌編集委員会：高橋克男委員の後任に森垣常夫君(国鉄建設局停車場課)を委嘱。5) 第4回材料試験連合講演会運営委員には八十島理事を推薦することとなった。6) 論文集の取扱いについて関係理事により研究することとした。7) 10月中の会員入退会承認。

◎各種委員会

1. 第6回文献調査委員会 (34.11.5) 出席者：樋口委員長，今岡，日野，片山，徳田，高野，津野の各委員，佐藤幹事。 議事：1) 44巻12号登載抄録および目録の決定。2) 論文題目カードの分類の決定。3) 次回委員会について。4) その他。

2. 海岸工学委員会 (34.11.6, 新潟市において) 出席者：本間委員長，渡部顧問，細井，石原(代楳木)，白石，岸，鶴田，宇野木，岩垣，田中，堀川，富永，太田尾，篠原，真嶋，永井，林，井島，福島の各委員。 議事：1) 明年度の講演会に関する件：第7回は高潮に関する講演会または講習会を東京または関西において8月末に予定する。第8回明後年は北海道の予定。2) オランダにおける Coastal Engineering Congress (8月24日)には本間委員長が出席し，伊勢湾台風の総合講演を予定する。論文は各省，学校等よりの研究発表を6月までに提出の予定。3) 伊勢湾台風に関連した研究の件：

永井委員：河港，海岸，防災の研究報告
異常高潮に関する公式の研究
波浪予報(東京，大阪等について)

長良川，木曾川その他の入江の波浪高潮
に対する研究
海岸堤防の構造に関する根本方針

宇野木委員：地球物理的高潮についての研究

等の研究が提案された。4) その他：文部省科学研究費：英文論文集の経過等について話合った。

3. 長大橋梁および高張力鋼鉄道橋研究委員会

(34.11.6) 出席者：田中委員長，成瀬，平井，奥村，田原，田中(五)，埴田(代)，友永，多田，中根，小西(代)，村上(代)，中村，松崎(代)，安浪，西村，菊池，田島，大宮，安藤の各委員。 議事：1) 本年度研究計画の説明 a) 疲労試験実験計画について，b) 高張力鋼の溶接性についての実験計画，c) 長大橋の構造形式について。2) 前回議事録について。3) 溶接高張力鋼鉄道橋設計示方書案4章(設計計算)，5章(設計細目)について審議。

4. 第6回会誌編集小委員会 (34.11.6) 出席者：田原委員長，梅野(代大河原)，吉田両委員。 議事：1) 44巻11月号口絵写真の決定。2) 44巻12号(増大号)会誌内容を確認した。

5. 第3回論文集各部委員会 (34.11.10) 出席者：第1部会・奥村部会長，井上，大久保，君島，平嶋，田島の各委員。第2部会・嶋，藤波，千秋の各委員。第3部会・最上部会長，竹下，高橋(国)，高橋(彦)，森，渡辺，山口の各委員。第4部会・丸安部会長，鈴木，藤井，細井の各委員，徳平編集幹事。 議事：1) 各部会ごとに審査中原稿の審査報告および新規受付原稿審査委員の決定。2) その他。

6. 第3回論文集部会長会 (34.11.17) 出席者：最上委員長，奥村，竹内，細井，千秋，山口の各委員，徳平編集幹事。 議事：1) 各部会報告。2) 論文集66号(昭35.1発行)登載論文の決定。3) 論文集66号・別冊として1編予定。4) 論文要旨の字数統一について。5) 委員交代について第4部会大島太市委員の後任多谷虎男氏(国鉄鉄道技術研究所)。6) 次回委員会について。7) その他。

7. 第6回会誌編集委員会 (34.11.25) 出席者：井口副委員長，田中(関西)，後藤(東北)両地方編集委員，奥村，梅野，南部(代西原)，寺島(代鶴見)，足立，米沢，吉田，樋口，諫山(代佐藤)，大西，浅井(代倉島)の各委員。 議事：1) 投稿原稿審査報告。2) 新規受付論文審査委員の決定。3) 依頼原稿状況。4) 依頼原稿先の協議。5) 45巻1号登載原稿を次のとおり予定した。

橋 善雄：連続合成桁の収縮とクリープの略算法，小川泰憲：最近の八郎潟干拓事業概要，長井 健：ダムの計画について，篠原武司：新発足した鉄道技術研究所，仙石善四郎：第2回技術士試験の結果について，林 泰

造：フランスにおける水理学研究の動向，安芸周一：フランスの水理研究所の印象

8. 第32回耐震工学委員会 (34.11.13) 出席者：岡本，小西(代後藤)，寺島(代遠山)，星埜，村，石井(代林)，久保，篠原(代二ノ丸)，伊藤(代中山)の各委員。議事：1) 地震会議の準備報告：プログラムが起案されたこと，国内出席勧誘を関係学会機関誌に掲載すること(3月頃)，外人の招待に関する事，フィルムを出席外人の御土産にする計画のこと，宴会の接待に関する事等。2) メッシナ地震会議について報告：出席者は久保(土木)，河角(震研)，竹山，棚橋(建築)確定，なお数人出席の予定。3) インドの Dr. Jaikrishue (Univ. of Roorkee) がクリスマス頃，4日間くらい日本に滞在して地震研究所，土木講座に地震工学の設備をしたいので企画について学びたいとともに耐震のデザインを見たいとの申し入れについて話合った。

9. 第3回耐震設計専門委員会 (34.11.19) 出席者：久保委員長，小寺，森本(代片山)，伯野，笹沼，伊藤，御牧，野沢の各委員，岡本，田原両本委員会委員，宮崎，針ヶ谷両氏。議事：収集中の資料の整理方法につき種々審議し，次回1月25日開催予定の第4回委員会までに各担当の分について，それぞれ結果を発表できるようにしておいてもらうよう依頼。

10. コンクリート常置委員会小委員会 (34.11.20) 出席者：村田，永倉，小林，土岐，山崎の各委員。議事：高炉セメントに関する調査の結果を持寄り，問題点の検討，調査資料整理の方法，今後の調査方法等について検討した。調査した文献のリストを作成し，一般的な高炉セメントの諸性質，施工例などについてさらに調査を進める予定。

11. 第1回土木賞規約制定委員会 (34.11.12) 出席者：星埜委員長，川村(代岡崎)，田原，最上，友永，国分，沼田，太田屋，高畑，横道(北海道)，後藤(東北)，荒井(中部)，丹羽(代後藤一関西)，庄司(中・四)，篠原(西部)の各委員。議事：現行の土木賞授与規程のうち主として，1) 土木賞の種別およびその性格。2) 授賞論文の選考範囲および方針。3) 土木賞委員会の構成方針，等についての改正点を中心として論議された。次回は各委員および各支部の意見を持ち寄って，具体案をうるよう進めることとした。

第2回土木賞規約制定委員会 (34.11.27) 出席者：星埜委員長，横田(代伊東)，川村(代岡崎)，井口，糸川，友永，国分，沼田，高畑，後藤(東北)，荒井(中部)，丹羽(代後藤一関西)，庄司(中・四)の各委員および末森専務理事。議事：第1回委員会の議事録を中心に中部，関西，西部(以上文書)，東北，中・四(以上口頭)の意見について研究が進められ，本部事務局の起案を参

考に一応意見の一致を見た点は，1) 土木賞の種別は学術賞および奨励賞，技術賞および奨励賞(いずれも仮称)とし，受賞者は会員であること。2) 論文および工事報告等の選考範囲は土木学会刊行物(支部をふくむ)に掲載されたものおよび掲載を約束されたものとする。3) 土木賞委員会を運営委員会と審査委員会に分けることは次回に研究することとし，とりあえず今まで出された意見を取り入れた土木賞本委員会を設けること。4) 本年度土木賞選考の期限も迫っているので，従来の方法に改正意見を取れた暫定措置をとり，改正はこれと併行して進めること。

◎講演会その他

1. 第6回海岸工学講演会 34.11.6~7 新潟市大和デパートにおいて)【本文 寄書 参照】

一般研究発表 19題，特別講演 3題，報告 1題，参会者 240余名。11月7日：午後見学会 A班 大河津信濃川分水工事 15名，B班 新潟海岸 48名。

2. 専務理事制設定にともなう定款改正案の文部省認可を申請中のところ 11月14日付認可があった。

3. 第3回粘土科学討論会 日時および会場：34年11月20,21日 農業技術研究所講堂において。主催：粘土研究会(東京都北区西ヶ原町農業技術研究所内)共催：日本地質学会，日本鉱物学会，日本鉱山地質学会，石油技術協会，日本土壌肥科学会，窯業協会，日本化学会，土木学会，農業土木学会，日本塩学会。

研究発表：一般講演 21編
特別講演 4編 } 題目および講師名略す
シンポジウム 11編

内容：地質，鉱物，鉱床，土壌，化学，窯業の各分野にわたり，特にシンポジウムについては風化，堆積，熱水変質，人工合成の各方面の粘土鉱物の生成環境の問題を討論された。この成果は「粘土科学の進歩第3集」に集録刊行の予定。

4. 粘土研究会 34年度役員 会長：須藤俊男(東教大)，評議員：第一部門(地質，鉱物，鉱床)，岩生周一(東大)，湊 秀雄(東大)，岩井津一(東工大)，白水晴雄(九大農)，長沢敬之助(名大理)，第二部門(採鉱，採油)，河井興三(東大工)，第三部門(窯業)，素木洋一(東工大)，田賀井秀夫(東工大)，第四部門(化学，物理)，桐山良一(阪大理)，大坪義雄(早大理工)，第五部門(土壌)，青峰重範(九大農)，江川友治(農技研)，内山修男(東北大農)，第六部門(土木，農業土木)，松尾新一郎(京大工)，野口正三(東大農)。幹事：高橋 浩(東大理)，松井 健(資源研)，渡辺 裕(農技研)，林 久人(東教大)，岩崎代志治(東大農)，大平成人(農技研)，沖野文吉(東大理)，宮崎政三(鉄道技研)，種村光郎(セントラル硝子)，加藤忠蔵(早大)。

支部だより

◎関西支部

(1) 学術講演会 (34.11.8, 京都大学工学部共同講義室)

- 1) 一般講演: 合計 46 編を三会場で発表した。
- 2) 特別講演:
題目: 東京, 大阪三時間の高速鉄道
講師: 鉄道技術研究所長 篠原武司君
聴講無料; 一般講演については論文集抄録 (B 5 判 160 ページ) を無料配布した。
聴聴者; 203 名。

(2) パウル レオンハルト P S コンクリートに関する講演会 (34.11.13, 中央電気倶楽部) 共催団体: 日本建築学会近畿支部, プレストレスト コンクリート技術協会, コンクリート研究会。

- 1) 題目と講師:
 1. 国鉄赤穂線吉井川 P S コンクリート橋梁工事について 国鉄構造物設計事務所 小寺重郎君
 2. パウル レオンハルト P S コンクリートについて レオンハルト設計事務所 W. Baur (通訳 小寺重郎技師)
- 2) 聴講費および参加者: 無料, 約 250 名。

(3) 第 2 回見学会 (34.11.14~15, 十津川方面)

- 1) 見学先:
 - 11月14日
 1. 奈良県吉野郡賀名生村 西吉野第一発電所
 2. 奈良県吉野郡大塔村 猿谷ダム (この日十津川村湯泉地の宿舎に一泊した)
 - 11月15日
 1. 奈良県吉野郡十津川村 芦瀬瀨発電所工事
 2. 奈良県吉野郡十津川村 風屋ダム工事
- 2) 参加費: 1500 円, 参加者 31 名。

(4) 技術講座 2号 (34.11.17, 20, 24の3日間 大阪市立大学工学部南校舎)

- 1) 講座名と講師:
塑性設計法 大阪市立大学教授 工博 倉田宗章君
- 2) 参加費: 100 円 (テキスト代をふくむ) 参加者: 80 名うち 53 名に修了証書交付

(5) 第 7 回幹事会 (34.11.21, 大阪建設会館)

出席者: 江口支部長, 小西幹事長, 伊藤, 八木, 中川の各幹事。

(6) 第 2 回商議員会 (34.11.21, 大阪建設会館)

出席者: 商議員一畑中, 中村, 室田, 岩間, 鬘, 加納,

上田, 西田, 岩垣, 渥美(代), 田中(常)。

常議員一石原, 田中(清), 江口支部長兼常議員。

幹事一小西幹事長, 伊藤, 後藤, 八木, 中川。

(7) 「橋梁工学の最近の諸問題」講演会 (34.11.30~

12.1, 大阪府職員会館大講堂)

1) 題目と講師: 11月30日

1. 構造用高張力鋼の溶接

KK 神戸製鋼所溶接棒部

応和俊雄君

2. プレストレス鋼橋 } 京都大学教授 工博
3. 鋼床板橋梁 } 小西一郎君

4. 鋼床板舗装 日本舗道KK大阪支店長
大森豊二郎君

5. 橋梁構造の立体化 } 大阪大学教授 工博
6. 曲線橋 } 安宅勝君

12月1日

7. 連続合成桁橋 大阪市立大学教授
橋善雄君

8. 高強度ボルト継手 京都大学教授 工博
小西一郎君

9. 大阪市の新しい道路橋
大阪市土木局道路部橋梁課長 近藤和夫君
(代講 同課設計係 佐伯章美君)

10. Dywidag 式 PC 橋 別子建設KK専務取締役
上野正夫君

11. 橋梁下部構造の設計 京都大学助教授 工博
松尾新一郎君

2) 参加費: 400 円, 教材費 (B 5 判 210 ページ) をふくむ。

3) 参加費: 343 名。

◎西部支部

(1) 講演会 (34.11.19, 9~15 時, 宮崎大学工学部講堂)

1) 題目と講師:

1. 宮崎県の海岸漂砂と港湾 宮崎県土木部長
松尾博茂君

2. 九州における一級国道改築並びに改良に関する二,三の問題 九州地建道路部長 住友彰君

3. コンクリートの塑性的性質と極限強度設計法について 九州大学教授 水野高明君

(2) 見学会 (34.11.20)

A 班: 国鉄日南線建設工事現場, 参加者 80 名。国鉄宮崎駅前 9 時出発, 貸切バス利用, 宮崎駅前 16 時解散。

B 班: 九州電力諸塚ダム工事現場, 参加者 63 名。国鉄富高駅前 9 時出発, 貸切バス利用, 富高駅前 17 時解散。

**編 集
後 記**

あわただしく昭和 34 年も暮れようとしています。今月は期せずして橋に関する記事が多くなつてしまいましたが、依頼した原稿が同時期にまとまつて到着したため、決して他意はありません。記事のバランスを常に考えておりますが、ときどきこういう結果になります。

伊勢湾台風の被害状況と復旧計画の問題点に関する記事をようやく 12 月号に間に合わせることができました。全般的なことはこれで一応の責任を果たせたわけですが、個々の細かい問題について経験者の資料を公開して下さるようになります。中日新聞社、中部地建、防衛庁などか

ら写真の取材について御協力いただき感謝しております。

真田名誉員の土木関係者の銅像など、とかく忘れ去りがちな先輩の偉業をしのぶための良き指針となりましょう。資料をたずさえて学会まで出向かれる御努力には心から敬服いたします。

新年号は橘教授の連続合成桁の収縮とクリープの略算法、小川氏の八郎瀧干拓工事概要、富所・長井氏の大倉ダブル アーチ ダムの計画、林教授のフランスの水理学、篠原所長の新発足した鉄道技術研究所の紹介、安芸周一氏の水理学の印象、仙石氏の第 2 回技術士試験を終つて、など相当バライティ

ーに富んだ記事を登載できる予定です。

ニュース欄にも発表しましたが、福田、石原、吉藤の 3 氏がそろつて学会会議会員に選ばれました。会員各位の支持に応じて、科学行政のため 3 氏の御健斗を心からお願ひ致します。吉田博士の藍綬褒賞はすでに遅きに失した感もありますが、祝賀会場で先生は実に楽しそうな御様子でした。ますます御活躍されるよう御祈りいたします。

では会員の皆様どうか良いお年をお迎え下さい。来年に備えてゆつくり英気を養なわれるよう望んでおります。

プレストレスト・コンクリート技術協会入会案内

プレストレスト・コンクリートが、わが国で工業化されてから 6 年目になりますが、欧米諸外国に比して、普及、技術ともまだ比肩できないのは残念であります。

今回土木学会、建築学会、農業土木学会の御提唱のもとに、プレストレスト・コンクリートの普及と技術の振興をはかるため、昭和 33 年 2 月 21 日に「プレストレスト・コンクリート技術協会」を設立し、また 1958 年(昭和 33 年 5 月 6 日)にプレストレスト・コンクリートの国際的進盟である F.I.P. (The International Federation of Prestressing) に加入いたしました。本会は次の事業を行います。

- (A) プレストレスト・コンクリートに関する調査、研究とその普及(会誌の発行、研究資料の配付、講演会、見学会の実施、技術上の質疑応答、新技術の研究、紹介等)
- (B) 国内および国外における関係諸機関との連絡および意見の具申
- (C) その他この協会の目的を達するために必要な事項

本技術協会の趣旨に御賛成の上、御入会御希望の方は下記へハガキにてお申込み下さい。協会規約、申込書、振替用紙を早速お届けいたします。

正会員会費 年額 800 円
 東京都千代田区丸の内 3 丁目 8 番地 (三菱仲 6 号館 4 号)
プレストレスト・コンクリート技術協会
 会長 吉田徳次郎 副会長 坂 静雄
 電話 (27) 6131~5 番 振替口座 東京 62774 番

会員入退会つについて (昭和 34.11.30 現在)

- 1. 入 会 75 名 (正 29, 学 43, 特 3 2, 特 2 1)
- 2. 退 会 19 名 (正 19)
- 3. 転 格 3 名 (学より正へ 3)

会員現在数 (昭和 34.11.30 現在)

| 名誉員 | 賛助員 | 特 1 A | 特 1 B | 特 1 C | 特 2 | 特 3 | 正 員 | 学生員 | 増加 | 計 |
|-----|-----|-------|-------|-------|-----|-----|--------|-----|----|--------|
| 29 | 30 | 17 | 12 | 72 | 112 | 97 | 13 487 | 983 | 56 | 14 839 |

| | | | | | |
|-----|-----|-----|--------------|-------------------|---------|
| 正 員 | 遠 山 | 繁 | 日本大学 理工学部講師 | 昭和 34 年 11 月 29 日 | 逝去 66 才 |
| 正 員 | 山 下 | 剛 | KK 間組 新長崎出張所 | 昭和 34 年 8 月 | 逝去 42 才 |
| 正 員 | 中 山 | 文 昭 | 和歌山県御坊土木出張所 | 昭和 34 年 8 月 15 日 | 逝去 34 才 |

昭和 34 年 12 月 10 日印刷
 印刷者 大沼正吉
 発行者 末森猛雄
 定 価 100 円

昭和 34 年 12 月 15 日発行
 印刷所 株式会社 技報堂
 発行所 社団法人 土木学会
 振替 東京 16828 番

土木学会誌 第 44 巻 第 12 号
 東京都港区赤坂溜池 5 番地
 東京都新宿区四谷一丁目(外濠公園入口)
 電話 (35) 5130・5138・5139 番